

### 第3回新潟市行政改革点検・評価委員会議事概要

日 時	平成 26 年 7 月 31 日 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
会 場	市役所本館 議会第 5 委員会室
出席委員	田巻清文委員長、伊藤聡子委員、伊藤伸委員、大橋誠五委員、佐野由香利委員、鷺見英司委員、渡邊信子委員（委員長を除く 50 音順）
次 第	1 開会 2 部長あいさつ 3 議題 (1) 行政改革作業チームの意見について (2) これまでの意見のとりまとめについて 4 閉会
議事概要	<p>&lt;開会&gt;</p> <p>(高井総務部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、行政改革の視点からの本市の現状分析や、現行の行政改革プラン 2013 の取組評価について、様々な角度からご意見を賜り、貴重な議論をさせていただいた。</li> <li>今回は、様々な所属で勤務する若手職員の作業チームからの意見や、皆様からこれまでお出しいただいたご意見の集約をお願いしたい。</li> <li>これまで同様、忌憚のないご意見をいただきたい。</li> </ul> <p>(本間行政経営課長補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配布資料の確認等（省略）</li> </ul> <p>(田巻委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回 3 回目ということで、これまでの 2 回について整理させていただく。</li> <li>第 1 回委員会では、前半で行政改革プランの意義、本委員会の役割、これまでの新潟市の行政改革の取組みを、後半で新潟市の財務、組織、職員の現状と認識、外部評価の状況について、事務局から説明を受け、皆さんから質問、意見をいただいた。</li> <li>第 2 回委員会では、新潟市の現状としてファシリティマネジメントの取組みと行政改革プラン 2013 の取組評価について、事務局から説明を受け、皆さんから議論いただいた。</li> <li>その後、委員の皆様からこれまでを通じた意見を事務局に提出いただき、本日の第 3 回の委員会を迎えた。</li> </ul> <p>&lt;議題&gt;</p> <p>(田巻委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>議題（1）行政改革作業チームの意見について、次期行政改革プランの策定にあたり、市では本庁及び区役所の 30 代前後の職員 9 名で作業チームを編成している。</li> <li>前回の会議で話したとおり、作業チームからも行政改革プランへの意見、アイデアをまとめていただいたので、発表していただく。</li> </ul> <p>(木下内西区建設課主査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業チームの意見とアイデアを、資料 3 と資料 3 別紙を使用し発表させていただく。</li> <li>作業チームは、本庁 5 名、区役所 4 名の 9 名で構成され、これまでの行政改革点検・</li> </ul>

評価委員会への参加を通じて、現在の職場やこれまでに配属された職場での経験を基にアイデアや意見を出した。

- ・チームで出した主なアイデアは、大きく4つに分類して整理した。

- ・一つ目は「業務改善」で、これは区役所目線のアイデアが多く記載されている。

- ・業務改善の①「業務の見直し、本庁、区役所の機能の整理」については、区役所では、広い範囲の業務を少人数で行っており、各業務を一人や二人で担当するなど、ノウハウの蓄積ができない状況で職員の負担も大きくなっている。

- ・本庁、区役所の役割を改めて整理したうえで、本庁がマニュアルや細かな判断基準を整備することで、区役所の支援を強化し、各区で行っている業務がより統一性のあるものとなるよう、指導する必要がある。

- ・業務改善の②「業務の集約化（総務事務センターの設置など）」については、前回のプラン2013策定時の行政改革作業チームでも同様の意見が出ているが、庶務業務や契約業務など共通業務は、課や区ごとに行うのではなく、それを集約化した総務事務センターを作るべきである。

- ・また、区役所の業務は、市民対応がほとんどであるが、事業者向けの業務といった区民に直接関係しない業務については、集約化を検討すべきである。

- ・業務改善の③「総合窓口の検討」については、窓口業務を行う職場では、制度や業務によって使用しているシステムが異なっており、同じ課の中でも縦割りになっている。

- ・そのため、窓口に来られたお客様が、幾つかの窓口を転々としなければならない現状があり、業務システムの運用を全市的な視点から整理すべきである。

- ・次に、二つ目の「人事、人材育成、職員意欲」については、二つ挙げさせてもらった。

- ・人事、人材育成、職員意欲の①「人員配置の適正化、業務の見直し、業務量の削減」については、人員の削減は、業務の見直しと併せて行う必要がある。業務の見直しは、事業のスクラップ&ビルドが課題だが、ビルドをしていく取組みは多くあるものの、スクラップを行っている取組みが少ないので、事業のスクラップを評価する仕組みを作ってはどうか。事業のスクラップ&ビルドが行われ、選択された業務に見合った適正な人員配置が必要である。

- ・人事、人材育成、職員意欲の②「業務と組織の管理」については、非正規職員が従事する業務の内容が高度化している現状がある。業務によっては、正規職員と同じ内容を非正規職員が行っている職場もあるため、管理職が業務内容を把握し、雇用形態や労働条件に見合った人員、組織管理を行う必要がある。

- ・三つ目の「協働」では、二つ挙げさせてもらった。

- ・協働の①「市民協働の取組みの強化」については、市民協働による取組みは、行政だけではできない、地域に入り込んだ施策を展開でき、行政と市民との協力関係構築や、地域のつながり、評価などに効果が大きいと考える。また、災害時にも非常に心強いものであり、取組みをより強化していく必要がある。

- ・協働の②「企業とのパートナーシップの形成」については、市民との協働に加え、企業とも対等な立場で真のパートナーシップを築いていける取組みをさらに強化する必要がある。

- ・最後の四つ目「その他」では、三つ挙げさせてもらった。

- ・その他の①「市の財務状況の見える化・ファシリティマネジメントの推進」については、扶助費の増加など厳しい財政状況や財産白書の内容を、大人はもちろん未来を担う子供たちにも知ってもらう機会が必要である。

- ・ファシリティマネジメントの推進では、各施設の現状や課題を全庁で共有するとともに、市民と一緒に考えて、選択と集中に取り組むことが重要である。

- ・その他の②「ワーク・ライフバランス支援の取組み」については、女性を生産年齢

人口に取り込むため、女性が働ける環境として、保育園の整備など充実してきている部分もあるが、さらに男性も家庭や地域で活躍できるようワーク・ライフバランス支援の取組みが重要である。

・その他の③「区の数について」は、前回の作業チームでも同様の意見が出ているが、今後の人口減少を考えると、区役所8つを維持管理することが容易でなくなることが考えられるため、区の数について考えていくべき。

・以上が作業チームの意見・アイデアになるが、アイデアをまとめるにあたり、資料3の別紙に記載のとおり、多くの意見、アイデアを出し、今日はこれらの内容を整理して発表させていただいた。

(田巻委員長)

・職員の立場から、これまでの行政改革の取組みに対する意見や次期行政改革プランへのアイデアを説明いただいた。

・作業チームの発表について、ご意見、ご質問等願います。伊藤委員、願います。

(伊藤伸委員)

・中身の前に、このように若い職員でチームを作られているという取組み自体は、素晴らしいことである。事業仕分けの際も、若手の作業チームで事業選定を行うなど、他の自治体ではなかなかないため、若手職員だけでなく、幹部職員が率先して許容している環境は非常によい取組みである。

・質問として、業務改善の部分で区役所の業務量について、広い範囲を少人数で行っており負担が大きいとのことだが、第1回の委員会では、課が多いという分析結果が出ている。

・職員数が多いか少ないかは、現場で働かれている方の実感になるが、実際、他の政令市の同規模自治体に比べて、職員数と区役所数のバランスは、本当に少ないと言えるのか教えていただきたい。定量的に示されていれば説得力があるのだが、いかがか。

(長浜人事課長)

・第1回の委員会で配布した会議資料の29ページに、職員全体の現状と課題を、35ページに、同規模政令市と比較したグラフがあるが、これは区ごとの比較になっていないため、区役所として他の政令市と比べて人数が多いかは、表からは分からない。

・差が出ている部分では、民生や農水であるが、これについては、区役所に農林水産部門があること、民生部門では、公立保育園を多く設置していることが他の同規模政令市より、職員数が多い理由になっている。

(伊藤伸委員)

・その部分は認識している。

・農林水産部門が多いことは、ご説明いただいたが、それは農林水産部門の一つのパーツであって、区役所全体の職員数と本庁の数の比較やバランスを考えたときに、例えば農林水産部門は多いけれども、一区役所を考えたときには、他の自治体とそれほど変わらないという可能性が、この表だけでは分からない。

・作業チームの意見では、一つの区役所でかなり広範な業務を行っているということで、感覚としては分かるが、それが実際人数としてどうかを知りたい。

(長浜人事課長)

・他の政令市に比べて区役所で幅広い業務をしていることもあり、結果として区役所の職員数は他の政令市に比べて多いという状況である。

・手元に具体的な数字がないが、本庁と区役所で半々くらいの状況である。

(伊藤伸委員)

・区の職員数は多いが、業務量が多いから、区役所の職員からは負担が大きいという実感が出てくる。

・そこは実感ではなく、職員数は多いけれども、これぐらいの業務量を持っているということが定量的に分からないと、この後、本庁に業務を寄せましようとなったとしても、現状では、それは全部担当者の実感でしかないため、エビデンスがあれば説得力が増すのではないか。

(長浜人事課長)

・農林水産部門で言えば、新潟市はあるけれども、他の政令市にはないところがあるが、窓口業務について、以前業務の内容を比較してみたところでは、他都市と大きな違いはなかった。

・これも事務分掌を並べてみたものであり、業務量としての数字は持っていないが、窓口業務の部分では、大きな違いはないと感じている。

(伊藤伸委員)

・最後にするが、職員総数の比較でいくと、第1回委員会の資料35ページを見ている限りでは、新潟市が他の政令市に比べてそれほど多いわけではない。

・その中で、農林水産部門や区役所の業務が増えているということは、数字を分析すれば、本庁の職員が少なくなっているのではないか。

・そういう数字があって、初めて業務改善の①で書かれている、区役所は人が多いけれども、他の市に比べて本庁で持っている機能を区役所で分担しているから、負担が大きいということが言えてくる。これだけを見ても、どこまで大変なのかが見えてこない。

・②「業務の集約化」や③「総合窓口の検討」も、①「業務の見直し、本庁・区役所の機能の整理」の問題意識があるから必要になってきていると思われるので、最初の現状分析や根拠が重要であることを意見として申し上げたい。

(田巻委員長)

・権限の問題もあるが、定量的なものがあって、初めて議論できるので、それを含めた資料を次回に用意いただけるか。

(長浜人事課長)

・どのような資料をイメージされているか。

(伊藤伸委員)

・区役所と本庁の職員比の、他市との比較と業務の一覧があれば、比較できる。

・おそらく、他市と比較すると、新潟市は区役所の比率が高く出ると思われる。

(長浜人事課長)

・新潟市の推移や数字であれば出せるが、他都市と比較するには、各市に照会をしない限りは出せない。

(伊藤伸委員)

・我々が過去に事業仕分けに関わった自治体の中に、職員数は減らしたが、減らした

ことによって、今、業務負担が非常に大きくなっているという問題意識を持っているところがある。

- ・蓋を開けてみると、元々が多すぎて、他市と業務量で比較すると、まだ標準までいっていないことが数字として見えてきていた。

- ・これは資料3の後半にも記載があるが、スクラップする事業がまだ残っており、結局職員の負担だけが感じられている。そういった意味でも、定量的な資料があると分かりやすいと感じている。

(長浜人事課長)

- ・研究させていただく。

(田巻委員長)

- ・今、区役所ごとのものはないが、全体の業務としては第1回の資料35ページにあるように、それぞれの業務内容を、他の政令市と比較することはできるということか。

(長浜人事課長)

- ・資料35ページの表で言うと、グラフの青が新潟市、グラフの赤が同規模の9つの政令市の平均を表しているので、分野別のものであれば持っている。

(田巻委員長)

- ・持っているのであれば、この中で本庁と区役所で分けられれば一番よかった。

(長浜人事課長)

- ・新潟市についてはすぐに出せるが、他の政令市については公表されていないので、比較するとしてもすぐには出ない。

(田巻委員長)

- ・少なくとも新潟市の本庁と区役所の業務ごとの数字があればお願いしたい。

- ・他に、渡邊委員。

(渡邊委員)

- ・まず1点伺いたい。行政改革作業チームのような若手職員が意見を言う取組みは、定期的に行っているのか。

- ・それと、作業チームの意見を見せていただくと、非常にいいと思うが、これが他の職員に発信されて、どういう効果が得られているのか。意見だけ出してそのままなのか、何かに反映する形になっていくのか、活用の仕方を伺いたい。

- ・意見の中に、全職員が財政面について勉強する機会が必要、階層研究に取り入れてほしいと要望が上がっていて、若手職員から声が出るのは望ましいことなので、それに対して市としてどのように対応しているのか。

- ・それから、今、議論のあった職員数について気になったのが、正職員が減った分を非正規職員で補っているとしたら、非正規職員数がものすごく増えているところに問題点があるということ。

- ・業務量が増えているとあったが、うつ病など長期的に休んでいる職員が増えている、時間外労働時間が増えているといった実態があるとしたら、職員数をただ単に減らすことが、新潟市の行政運営としていいことではないと思うがいかがか。

(古俣行政経営課長)

- ・若手作業チームが他にあるかという点については、この取組み自体は珍しいものだと認識している。
- ・作業チームは、行政改革点検・評価委員会で言えば、2年前の策定時にも作っており、また、事業仕分けの際にも作っている。
- ・毎年やっている中では、事務改善の取組みとして、改善実践の報告会をやっているが、報告会の運営を若手チームにお願いしている。改善実践を選んだ中で、それをどのように庁内に発表していくかのアイデア等を出してもらっている。
- ・行革の作業チームは、前回2年前にやったということで、そこで出た意見は、この部分が若手からという表示はないが、当然新しいプランに反映されている。
- ・毎年の改善実践では、それを誰が出してもいいので、若い人からも実践報告や提案が出てきており、それは各課で共有できるように、職員ポータルに載せたり、報告会で発表したりしている。
- ・若手職員が意見を言えない雰囲気にならないように、このような機会があるということをやっている。

(長浜人事課長)

- ・ご意見を頂いたように、メンタル的な問題や時間外勤務の問題は、新潟市においても課題と認識している。
- ・時間外については、非常に増えてきていることもあり、昨年度、所属横断的なワーキングチームを作り、どうやったら時間外勤務を減らせるか、時間外勤務をしないで仕事を進めることができるかということで、アイデアを募集した。
- ・その結果、今年度は各所属で目標を持って取り組むということで、それぞれの目標を所属から提出してもらい、それを中間で1回総括し、その方法を見直しながら年度末に向けて目標達成できるように取組みを行っている。
- ・メンタル問題、時間外勤務の問題については、日本全体の問題として同じ悩みを共有していることもあるので、民間での取組みも参考にしたい。
- ・職員数については、合併したことで総務部門など重複する部分はスケールメリットを生かすということで、適正な配置を進めるとともに、結果として削減を進めてきた。
- ・ただ、削減するだけで適正化とは言えないため、ここ2年の適正配置計画の中では、目標数値を今までのように大幅に減らさず、委託化や事務の見直しなど、見合う部分が結果として減るということで目標を立てており、減らすことを前提とした考え方ではなく進めてきている。

(田巻委員長)

- ・渡邊委員、よろしいか。

(渡邊委員)

- ・非正規職員数がどの程度増えたかは、後ほど教えていただきたい。また、非正規職員の業務の内容が高度化して複雑化していると書いてあったので、実際どうなのかについても資料をいただきたい。

(長浜人事課長)

- ・非正規職員の人数は次回までに用意できるが、高度化しているかどうかについては、作業チームがどういう点を高度化していると感じたのか確認し、整理していきたい。

(大橋委員)

- ・今、渡邊委員がご指摘された点は、前回のプラン 2010 の点検・評価委員会の際に、数値をいただいております、非常勤、臨時、再任用職員を含めて約 1 万 1,200 人であった。
- ・総数としての大きな変化はなかったが、正規職員は数値目標があり、予定どおり減ってきたということだった。
- ・論点整理という意味での提案になるが、基本的に地方自治体（市役所）は、これから事業官庁から政策官庁に移行しないと厳しくなる。
- ・人口減少、生産年齢人口の減少が歴然としていることに対して、今、区役所が 8 つあることは、事業官庁であり続ける証左である。だから、個人的には合併 10 年程度を目途に、6 つくらいに集約した方がよいと思っている。
- ・また、作業チームの視点には、非常に意見が一致する部分が散見できるのだが、業務量の削減をしない限り人間は減らせないというのは、当然の理屈である。
- ・これは政治の部分になるかもしれないが、その中で非正規職員を運用していくと、正規職員と非正規職員とのモチベーションのバランスが悪くなるため、どのようにモチベーションを上げていくかということが次の問題になる。
- ・方向性として、ベクトルは同じ方向を向いていると思うので、そういう論点整理をしていくと分かりやすいのではないかと意見をさせていただきます。

(伊藤聡委員)

- ・この点は非常に重要で、非正規職員と正規職員との間で、非正規だからという意識がお互いあって、責任ある仕事を任せることができないという意見も出ており、やはり負担感が全面に伝わってくる。
- ・事業のスクラップを評価する仕組みも指摘されているが、実際に事業の点検をどの程度の割合で行って、事業の必要性などの判断をどのような形で行っているのか。

(古俣行政経営課長)

- ・各所管課で行っている事業について、どの程度の人員で、幾らの予算がかかっているかを自ら点検して、さらに、将来的にどうするかという方向性までを出す作業を 1 年に 1 回、事業の棚卸ということで行っている。
- ・実際に事業を来年やるかやらないかは、予算要求の段階で、検討する話になるが、予算要求を伴わない事業であっても、全事務事業を必ず 1 年に 1 回見直すということで行っている。

(伊藤聡委員)

- ・現段階では、ビルドばかりが多くなって、スクラップができていないという不満があると思われるので、どういう点で事業を生かす、生かさないと判断するのかを、もう少しシビアにやったほうがよいのではないかと。

(田巻委員長)

- ・意見として承る。
- ・今まで行ってきた仕事を切ることは、内部ではなかなかやりにくいところがある。
- ・外部評価によって、やめるというのも、一つの方法である。
- ・自分で自分の仕事をやめるというのは、自分がいらぬということになりかねないが、そこを大胆にやるのが政策ではないかと思うので、ぜひお願いしたい。

(伊藤伸委員)

- ・この取組みが素晴らしいからこそ、しっかり指摘すべきところは指摘したい。

・2点意見になるが、資料3裏面の②「企業とのパートナーシップの形成」の記載だけが、「パートナーシップを築いていけるような取組みに期待する」となっており、急に他人事になっている。

・外部に出す資料であれば、自分たちは職員で当事者だという意味では、期待するのはまさに我々、外の委員が言うべきことではないかと感じる。

・もう一点は、資料3表面の(3)協働の①「市民協働の取組み強化」に、「市民協働による取組みは、行政だけではできない地域に入り込んだ施策を展開でき」と書かれている。

・実態として、職員が減ってきて、行政の業務量は増えてきているなかで、どうやって地域や民間にお願いするかというところで書かれていると思うが、元を正せば反対で、地域や民間でできないものを行政がやっているはず。

・それがいつの間にか、行政が他のところも含めて守備範囲が広がってしまっているから、今、業務量が多くなっている。

・結果として同じことを言っているかもしれないが、その考え方が違ってしまうと、地域にお願いすることが、結果的に下請けと取られかねないので、そういう考えの中で市民協働を進めていただきたい。

(鷺見委員)

・2点伺いたい。作業チームのアイデアの(1)業務改善の②「業務の集約化」と③「総合窓口の検討」について、この10年間で、どこかにシステムを寄せるなど、できたものはないか。

・業務の縦割りということなので、合併とは関係ないかもしれないが、企業であれば、合併したら、まずシステムをどのように統合して効率化するかということを考える。

・どのように庁内で議論されたのか。別紙の資料には、コスト面、費用対効果の面から導入を見送ったという記述があるが、それが障害になっているのか、できていない理由は一体何かを伺いたい。

・もう1点は、(2)人事、人材育成、職員意欲の①「人員配置の適正化、業務の見直し、業務量の削減」については、まさに素晴らしいアイデアである。

・大学の授業でも、スクラップすることが評価される仕組みをどう作ったらいいか学生に聞くのだが答えられない。作業チームの皆さんで、何か意見があればお伺いしたい。

(田巻委員長)

・まず、システムについて、事務局からお願いする。

(古俣行政経営課長)

・合併した市町村が持っていたシステムについては、新潟市が持っていたシステムに統合されたが、新潟市の持っていたシステムの中で、福祉や税、住基のシステムが以前からばらばらだった。

・これは、それぞれの部署でシステムを作ってきた時期が違ったからであり、総合的な統合システムの考えが出てきたのが、その後だったため、既に運用しているシステムを統合システムに作り直すと経費がかかってしまう。

・現在運用ができていの中で、それだけの経費をかけてやる必要があるかどうかは、その都度検討してきたが、その場では、支障がないということで統合システムの導入は、やってこなかった。

・現在は統合システムの流れができており、多くの政令市が統合システムを作って、そこにデータを全て乗せているので、新潟市も遅ればせながら検討している。

・マイナンバー制度ができれば、ナンバーで管理することもできるので、そこを目指して、システムの再構築をどのようにやっていくかを検討しているところである。

(田巻委員長)

・次に、作業チームから、スクラップの評価、仕組みについてのアイデアがあれば願います。

(齋藤行政経営課主査)

・スクラップの仕組みについて、以前は財務課が予算の査定を行う際に、ゼロ査定、つまり予算がつかないことがあり、そこでスクラップされていた。  
・今も当然行われているが、各所属の判断に任せる部分が以前より大きくなってきている。  
・それはいいことでもあるが、その分、自分たちでチェックしていく仕組みが求められ、そこがまだ十分ではない。  
・もう一点は、初めてこんなサービスを始めましたというと、当然評価してもらえたり、市民から喜んでもらえたりするが、止めることについては、手を抜いたり、楽をしていると思われ、表立って言っても認めてもらえないという気持ちになる。  
・そこを解消するためには、効率的に行うことができたことを、拾い上げて褒める、評価する仕組みが必要である。

(田巻委員長)

・ひとつのアイデアとして承る。  
・止めることをどう評価するかは難しいが、時間でどれくらい削減されて、それが費用に換算されると幾らになり、その部分がプラスになるということをどのように表すか。  
・また、行政サービスを止めるとなると、市民としては不満もあると思うが、その不満に対して、いかに情報を出して、どれだけの税金が、そのサービスに使われてきたのかということも理解していただく。  
・難しいところもあるが、それをやらないと新しいこともできないので、いろいろな工夫をしていただきたい。  
・他に、意見もあるかと思うが、次に進めさせていただく。  
・議題(2) これまでの意見のとりまとめについてだが、その前に、今回委員の皆様からご意見とともにお出しいただいた質問などについて、事務局から説明をお願いします。

(本間行政経営課長補佐)

・資料2として配布した17項目の質疑事項整理票について、それぞれの事務局担当課より説明する。

(各関係課長)

資料2「質疑事項整理票」について説明。

(田巻委員長)

・今の説明について、質問を伺いたい。大橋委員、願います。

(大橋委員)

・人事の関係について、女性人材の活用やフランチャイズ制の登録者などで説明いた

だいた数字は、一般行政部門の数字か、それとも教育部門や消防なども含めた普通会計部門の数字か。

(長浜人事課長)

- ・教育部門や消防も含めた数字であるが、学校の教員は人数に入っていない。

(田巻委員長)

- ・他に質問はないか。
- ・質問についての回答はここまでとして、意見のとりまとめにあたり、各委員の意見を伺いたい。
- ・資料1に、各委員から意見を出していただいたものを、事務局で集約版ということでもまとめていただいたが、集約版を初めて見る形となるため、今すぐに、とりまとめをするのは難しい。
- ・提案になるが、各委員それぞれ、新潟市の現状やプラン 2013 の取組みに分けてご意見を伺ったが、特にここだけは外したくないところを言っていただき、その部分を盛り込んで、文章化したものを提言書の形で示してもらおう。
- ・提言書として、まとめていただいたものを、各委員から読んでいただき、その上で意見を伺うことにしてはどうか。

(佐野委員)

- ・概ね記載のとおりでよいが、次の行政改革プラン策定についての中で、本日議論されている8区の数々の妥当性については、一つ集約版で入っていないところもあるので、入れていただきたい。
- ・例えば新たに追加すべき項目として、8区制の見直しをするというところを追加した方がよいのではないか。

(田巻委員長)

- ・8区制については、市の現状認識の部分に8区制の維持についてどうかと書いてあるが、次のプランのところには書いていない。そこには、ぜひ載せていただきたいということか。

(佐野委員)

- ・若手作業チームからの意見もあったので、合併から10年経過することも含めて、振り返りが必要で、ぜひ入れていただきたい。

(田巻委員長)

- ・ここは入れていただくということでお願ひする。

(井崎政策調整課長)

- ・今、総合計画の諮問案の中で、区の数あるいは区の仕事そのものを考えつつ、見直していこうということが書かれている。
- ・行政改革プランだけだと、どうしても行政の効率化という観点が強くなってきたときに、もう一度住民サービスの維持向上や、機能の保持という観点が必要なため、書き方を工夫するなど注意させていただく。

(佐野委員)

- ・全体的な議論の流れで出ている意見でもあるので、次のプランに向けて、全く触れ

ないというのもどうかと思う。工夫して記載いただきたい。

(田巻委員長)

- ・考え方として、これまでも現状認識などで問題意識として出てきているので、何らかの形でそこは触れることになる。
- ・具体的に次期プランに入れるよう提言に含めるには、工夫が必要になるが、それについては、まだ皆さんと議論していないので、議論してからとしたい。

(渡邊委員)

- ・委員長の提案に賛成する。
- ・意見を提出する際、どの項目に何を書か悩ましい部分もあったので、提言書の原案を示していただき、それ読んで、内容を加筆する形で、各委員から意見をもらった方がまとまってくる。
- ・次の委員会に向けて、きっちり推敲できるスケジュールで、原案を示していただきたい。

(田巻委員長)

- ・今、賛成の意見もあったが、いかがか。
- ・ただ、全く反対の意見があったかどうか。ここに集約されたのは事務局で載せるべきものだけ載せて、反したものは載せなかったとなるとよくない。
- ・意見が分かれている場合は、併記する形でお願いしたいが、それはなかったか。

(古俣行政経営課長)

- ・提出いただいた意見を確認した中では、それぞれの方向は一緒と受け止めている。

(田巻委員長)

- ・提言書の原案は、委員の意見について、もう一度文章の流れなども、よく見ていただき、不足の部分に対して、さらに意見をいただく。
- ・それを盛り込んだ形で次の委員会ということにしたいがよろしいか。
- ・それとも、次の委員会が9月30日なので、意見がまとまらないということであれば、議論するべきところを絞って、もう一度集まって議論する方法もあるが、鷺見委員、いかがか。

(鷺見委員)

- ・委員長に一任する。

(田巻委員長)

- ・大橋委員、いかがか。

(大橋委員)

- ・手法については委員長に一任する。
- ・この委員会の立場が、行政改革を点検・評価するもので、こうあるべきと方向性を示すのが馴染むのか自問自答しているが、各委員の意見を見ると、ベクトルは一緒なので、このベクトルが市の考えと、大きく違うのであれば議論する必要がある。
- ・見た限りは同一の方向に向かっているということなので、提言書原案を示していただければ、それを議論した方がよい。

(田巻委員長)

- ・評価については、本当にその施策が遅いのか、計画どおりやっているかの認識の仕方が市側と違うところがある。
- ・市では、きちんと計画通りにやっているというが、外部委員として見ると、もっとスピードを上げなければだめと考えるところもある。
- ・また、危機感の持ち方についても、中期財政見通しがあったが、見通しでは、収入も順調に入ってきて、基金も積み上がってくるようになっていたが、そのような感覚でいいのか。
- ・提言書の形で、一旦文章にさせていただいた上で、ニュアンスや危機感の部分の表現を議論するとよいのではないか。

(佐野委員)

- ・4回目の委員会は、提言書を承認するという場になるのか。

(田巻委員長)

- ・承認までいければいいが、それまでにこれまでの議論の内容を文章化した形で皆さんに見ていただいて、いろいろな意見をもらって、直せるところは直すと。直せない部分もあるかもしれないので、それを第4回の委員会でさらに意見を伺ってという形になる。

(渡邊委員)

- ・委員の意見を踏まえて、提言書の原案が形になるまでに、事務局でどの程度時間がかかるか。それによって検討時間も変わってくる。

(田巻委員長)

- ・お盆明けくらいにはできるか。

(古俣行政経営課長)

- ・お盆明け、遅くとも8月下旬には各委員に最初の原案をお送りして、意見をもらえる状況したい。
- ・その後1か月間、やりとりをさせていただき、最後の委員会で、足りない部分や、他の委員の意見を聞かないと決められない部分などを詰めていただきたい。

(田巻委員長)

- ・そのスケジュールで進めていくか、9月30日までに、もう1回議論する場を設けるか、いかがか。

(伊藤伸委員)

- ・書面上のやりとりは、なかなか現実感がなく、最後に承認という、ゴールが決まりながらの意見出しだと、遠慮する部分も出てくるので、理想としては、もう1回やって、そこで議論を詰めた上で、最終調整がよいのではないか。

(田巻委員長)

- ・理想はその形であるが、一旦文章化して、それを見て意見を伺い、なお、まだ意見が違う状況であれば、もう1回招集させていただくことで、いかがか。

(渡邊委員)

・ 8月下旬までに原案ができるのであれば、8月中にいろいろ考えて、それでも9月の半ばくらいにもう一度集まったほうがいいかどうかは、原案を見せていただいてからでしょうか。

(古俣行政経営課長)

・ 9月30日の第4回の委員会が提言書の提出日というわけではないので、第4回の議論をふまえて、また直すという形になる。

(田巻委員長)

・ 最終的な提言書の提出は、どの程度の日程になるのか。

(古俣行政経営課長)

・ 提出は、第4回の委員会が終わって、最終的な直しをしていただき、10月中を想定している。

(田巻委員長)

・ 10月中であれば、第4回で意見が出ても、訂正する時間は十分あると。

(渡邊委員)

・ ちゃんとした形になっていると、伊藤委員が言うように、そこを変えてくださいとは非常に言いにくい状況にはなるのではないかと。

(佐野委員)

・ では、もう1回やってはどうか。

(田巻委員長)

・ 提言書の原案を見ないとわからないので、一旦提言書の原案をお作りいただいて、8月下旬くらいに見させていただく。

・ そこで、もう一度招集して議論する必要があるれば、9月半ばを目途に招集させていただく。

・ それでは、第3回委員会について終了とさせていただく。

<閉会>